

# 日本型教育への不満 留学の要因に

毎年、塾の卒業生の1割が米国の大学に進学します。ここ近年でじわりと増えてきた感覚で、留学に関する問い合わせも多い。

大きな要因に、日本型教育への不満の高まりを感じます。研究予算は縮小傾向にあり、教授は雑務に追われて本分の論文が書けず、



## 「J PREP 齊藤塾」 齊藤淳代表

講義は教員が一方的に話すばかり……。大学関係者がいくら頑張っても、海外大学での教育と比べられ、優秀な受験生にそっぽを向かれる時代になったのです。

米国の大学の授業は少人数のものも多く、リベラルアーツに主眼が置かれ、一学生び続ける基盤を築く体制が整っています。この21世紀は様々な情報を分析して判断を下す「知識集約型」の時代。時代に即して人材を選抜し育てる体制が、国内では脆弱です。

文系・理系別の入試だった時代選れ。人工知能(AI)が世の中を席巻し、統計学的思考がますます

重要になってきているのに、高校生のうち数学を放棄してよいわけがありません。

奨学金制度の充実や国内大学との併願が容易になってきているのも、海外進学者が増えた理由でしょう。

新たな大学入試改革で4技能の英語外部試験が導入されるのも歓迎できる動きで、海外大と国内大の受験の垣根が無くなる方向にあります。これまで主に読解やリスニングで英語力を測ってきたのは大学側の怠慢です。国内の大学を批判したいわけではありません。「外」と比べられることで、各大学でよりよい教育が行われることを望んでいるのです。

(聞き手・横川穂香)

朝日新聞  
2018年6月16日